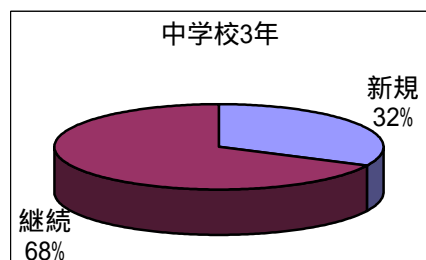
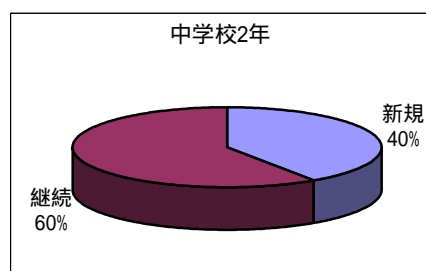
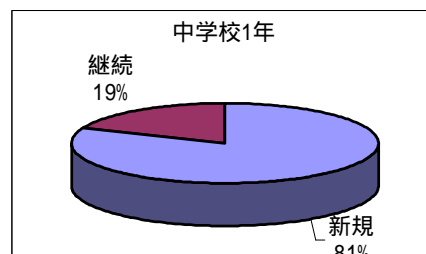
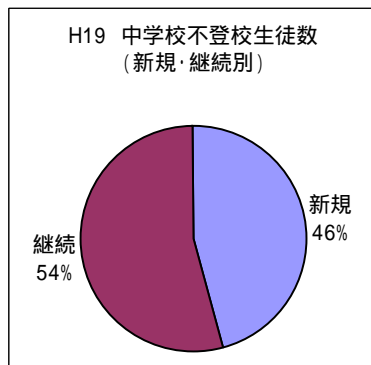
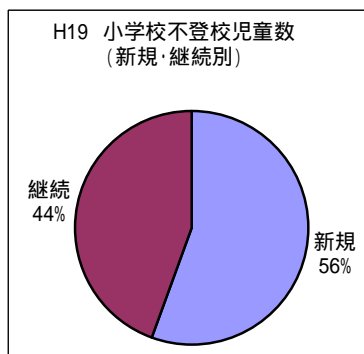


不登校が継続している子どもの受け入れ

平成 19 年度の問題行動等調査の結果では、小学校の不登校児童の約 44%、中学校の不登校生徒の約 54% が、「前年度から不登校の状態が継続している」児童生徒でした。

新年度の新しい学級、学校、教員との出会いの中で、不登校を経験した子どもを新しい気持ちと細やかな配慮で受け入れ、改善につなげる事例も報告されています。



新学期に使いたい教師の言葉

「そうじの仕方がうまいね。家でも手伝っているの？」

「あなたのおかげだよ」

「ありがとう」

「そこがあなたの長所だと思うよ」

「私にできることがあったら、何でも話してね」

総合教育センター教育相談室「事例に即した手引き」より

<http://www1.iwate-ed.jp/tantou/soudan/index.html#taisaku>

不登校が継続している子どもは、新学期にあたり、新たな希望をふくらませているとともに、不安感も高めていることでしょう。新学期、教師は、まずそうした子どもの「味方になる」ことを意識してはいかがでしょうか。

そのためには、「が足りないため、ができない子」ではなく、「という状況があれば、ができる子」というまなざしで子どもをとらえ、登校できなくても自分のことを気にかけて、声をかけてくれる先生、できないときも自分の気持ちをきちんと理解して、一緒に次の手立てを考えてくれる先生、と子どもに感じてもらえるような態度でかかわっていきましょう。

不登校児の再登校には、教師への「信頼感」(わかってくれる、大切にしてくれる、リラックスさせてくれるなど)と、教師とのかかわりでの「充実感」(個別に教えてもらって勉強がわかるなど)を高める援助が大切だと言われます。子どもの味方になってこそ、こうした援助ができるのだと言えます。

(総合教育センター主任研修指導主事 佐藤一也)

不適応対策に係る情報を発信していきます。不適応対策指導の参考に活用していただければ幸いです。

岩手県教育委員会事務局学校教育室生徒指導担当 (019-629-6145)

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=1813&ik=3&pnp=86&pnp=1779&pnp=1813>